

科目名	担当教員名	学期
<p align="center"><b>内部統制とコンプライアンス</b> Internal Control and Corporate Compliance</p>	<p align="center">中原 國尋</p>	<p align="center"><b>後期</b></p>
<p align="center"><b>目的</b></p>	<p>近年、我が国では巨額粉飾事件が相次いで発生している。東芝による不適切会計事件も拡大の様相を呈している。不正な財務報告は、資本市場における投資者を欺く行為であり、投資者保護を基礎とした健全な資本市場のために、あってはならない行為である。特に西武鉄道とカネボウの有価証券報告書虚偽記載事件は、制度改正のきっかけとなった。米国では、エンロン事件が SOX 法の導入の契機となった。</p> <p>企業による不正行為は財務報告に止まらず、法令違反もある。たとえば、杭打ち工事の不備によるマンション傾き問題や自動車メーカーによる排ガス不正が話題になっている。その他、食品品質問題、個人情報漏洩、独占禁止法違反などコンプライアンス（法令遵守）に関わる事件は枚挙に暇がない。</p> <p>内部統制という語は、日本では制度対応のための仕組みを意味することも多いが、本来は経営者が企業体を経営するために組織に組み込む仕組みである。本講座では、財務報告不正と法令違反を予防・発見するための仕組みである内部統制について、具体的な事例を踏まえて学ぶ。</p> <p>コンプライアンスはリスクマネジメントの一環と考えられ、観点を変わると企業の社会的責任（CSR）にも含まれることから、これらのテーマについても学ぶこととする。</p>	
<p align="center"><b>概要</b></p>	<p>下記のサブテーマに分けて講義を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 内部統制の基本から内部統制報告制度</li> <li>● ガバナンスとコンプライアンス</li> <li>● リスクマネジメントと CSR（企業の社会的責任）</li> </ul> <p>本講座においては、企業経営の「守り」のあり方について、事例を使って分かりやすく解説する。「内部統制とコンプライアンス」だけでなく、その関連領域を幅広く学習する。</p>	
<p align="center"><b>到達目標</b></p>	<p>企業経営の基本である内部統制・コンプライアンス・ガバナンス・リスクマネジメントに関する素養を身につけ、企業において適切に実践が行える人材を育成する。具体的には、企業における様々なリスクを識別・評価し適切な対応策を立案するとともに、その妥当性を評価できるようになる。</p>	
<p align="center"><b>成績評価の基準と方法</b></p>	<p>出席及び講義への積極的参加（40点） 講義時間中に実施する確認テスト（60点） 100点満点で60点以上を合格とし、A（20%）、B（40%）、C（40%）、D（20%）を目安とした相対評価により行う。</p>	
<p align="center"><b>履修条件</b></p>	<p>財務会計の基礎を理解していることが望まれる。また、最近の企業不祥事に疑問や意見を持つ学生を歓迎する。</p>	

授業計画	
第1週	授業ガイダンス 内部統制の基本
第2週	米国における内部統制発展の歴史 ● 内部統制の成り立ちから SOX 法まで
第3週	内部統制報告制度の概説 ● 我が国の制度概要 ● 財務報告不正事例の演習
第4週 ↓ 第5週	販売プロセス等、業務プロセスの内部統制 ● 解説と演習
第6週 ↓ 第7週	内部統制報告制度の詳説 ● 内部統制基準と実施基準 ● 内部統制不備事例の演習
第8週	中間まとめ 確認テスト（中間テスト）
第9週  第10週	ガバナンス ● ガバナンスの意義とそのあり方 ● ガバナンス関連事例の演習
第11週 ↓ 第12週	リスクマネジメント ● リスクマネジメントと内部統制 ● リスクマネジメント事例の演習
第13週	コンプライアンス ● コンプライアンス対策 ● 法令違反事例の演習
第14週	総まとめ 確認テスト（期末テスト）
第15週	CSR（企業の社会的責任） ● 企業の社会的責任の必要性 ● CSR 報告
テキスト 参考書等	【テキスト】 指定しない。講義資料を都度配布する。 【参考書】 講義中に必要に応じて指示する。
その他 特記事項	特になし。